

会 議 議 事 録

1 会議名	令和7年度第1回長岡市水族博物館協議会
2 開催日時	令和7年7月11日（金） 午後3時から午後4時30分まで
3 開催場所	長岡市寺泊文化センター（はまなす） 3階 大研修室
4 出席者名	【協議会委員】 柳下委員長、大浦方副委員長、池浦委員、川上委員、駒形委員 佐藤委員、品田委員、家後委員 【委員以外の出席者】 小林寺泊支所長 【事務局＝科学博物館】 金垣参事（科学博物館長）、五井科学博物館長補佐 池田寺泊水族博物館長、蝶名林技師 岸田博物館専門員、田中会計年度任用職員
5 欠席者名	清水委員
6 議題	報告 （1）令和7年度事業実施計画・状況について （2）水族博物館整備事業の計画（概要）について
7 審議結果の概要	（1）令和7年度事業実施計画・状況について 概要を事務局より説明 （2）水族博物館整備事業の計画（概要）について 概要を事務局より説明
8 審議の内容	

事務局	(1) 令和7年度事業実施計画・状況について (資料により説明) 主な意見は次のとおり
委員長	猛暑に対応し、イベント時期や開催場所の変更等の工夫を行っている と聞いたが、来館者にとって良いことだと思い感心した。
委員	先ほど久しぶりに寺泊水族博物館へ立ち寄り、館内を観覧してクリ アファイルを購入した。 情報発信に関して、紙媒体のチラシなどは作っていないだろうか。 もしデータをもらえれば、大型スーパーのデジタルサイネージ等での 情報発信が可能である。栃尾美術館や科学博物館でも行っているの で必要があれば声を掛けてほしい。 昨年度の観覧者数が議題(1)資料に載っているが、猛暑の影響等 による今年度6月までの観覧者はどうか。
事務局	デジタルサイネージに関して、機会があればぜひご協力をお願いし たいと思っている。 今年度6月までの観覧者について、ゴールデンウィークの曜日によ る変化はあるものの、概ね例年通りである。詳細な月別観覧者数につ いては提出資料を参照していただければと思う。
委員長	調査研究活動について、漂着生物調査を周年実施しているとのこと だが、漂着物の変化はあるか。
事務局	ここ数年大きな変化はなかったが、昨年度はマンボウが新潟県内で 多く漂着した印象がある。マリンピア日本海では、漂着したマンボウ をわずかな期間ではあるが展示していた。こちらで確認したものだけ でも2、3例あったと記憶している。それ以外では死亡したウミガメ や、イルカの体の一部が大半を占めている。
委員長	調査は子どもたちと行うのか。
事務局	学芸員が現地に向かい、種類、大きさを調査した後、可能なものは 回収を行っている。ストランディングレコードという漂着物の記録を

委員	行うためのものがあるため、そちらへ記録している。 イルカに関しては貴重な資料となるため、国立科学博物館へ連絡している。今回イルカの頭骨標本を作製していただいた。今後展示の機会があるかもしれない。 職場体験について、今回引率として生徒とともに参加したが、生徒たちは学校内と全く違った様子で、表情もとてもよく、普段はあまり喋らない生徒たちが、分からないことを質問したり、困っている場合は助けを求める場面があり、こんなこともできるのかという驚きが多くあった。保護者にその様子を伝えたところ、「すごく良い体験ができて良かった」とのことだった。
委員	子どもたちが大きくなり立ち寄る機会が減ってしまったが、今日久しぶりに寺泊水族博物館を訪れた。駐車場には県外ナンバーの車が多く停まり、館内では若い男性が熱心に写真を撮っていたり、女性6人グループがペンギン広場で楽しそうにしていた。 今日は暑かったが、ペンギン広場にはたくさんの観覧者がいて、暑さも忘れたかのように楽しそうにしていた。自分自身も波の音や海や空の青さに癒され、すごく気持ちのいいところだと感じた。以前の協議会でも話題に出たが、やはり海の上という立地はとても素晴らしいと改めて思った。
委員長	大河津分水路の工事に関して、寺泊水族博物館の移転の話も出てきていると思うが、砂の問題を除けば先ほどの話のとおり現在の場所はとてもいい立地である。
委員	私も今日久しぶりに寺泊水族博物館を訪れた。水槽がよく見えるよう照明を落としていて暗い印象はあることと、建物の老朽化は仕方ないことだが、ごみが全く落ちていなかったのは素晴らしいと思った。 ちょうど保育園の園児たちが見学に来ていたようで館内が賑やかだったが、年配の男性グループへスポット解説を行っている場面に遭遇した。タイミングよくダイバーによる餌付けショーを見ることもでき、園児たちは喜んでいる様子だった。お手洗いも清潔にされていて、職員の努力を感じた。 空調の問題なのか、関係者以外立入禁止となっている扉があったが、全て少し開いていた。風通しをよくするためなのか。

事務局	完全に閉じると館内に湿気が溜まってしまい、水温の低い水槽に結露がついてしまうこと、建付けの問題で閉まらないこと、有事の際に観覧者の声が聞こえるようにすることの３点から、扉を完全に閉めないようにしている。
委員	先ほどと同じ話になってしまうが、現在の寺泊水族博物館の立地は素晴らしい。ペンギン広場へ出れば一面の海を見ることができ、極論ではあるが、ここでないとだめなのではないかと思った。 １点だけ残念だったところがあり、ペンギンサブプールの掃除をしていた職員と何度か目が合ったが、かなり仏頂面をしていた。園児たちも近くにおり、暑さによりそこまで気が回らなかったのかもしれないが、観光という観点からみると、せめて子どもたちがいる場面では明るく振る舞った方がいいのではないかと思う。
委員	今日観覧中に何度か職員とすれ違ったが、協議会委員として頭を下げて素通りされる職員もいた。観覧者から頭を下げられたら、少し頭を下げるだけでもした方が良かったと思った。餌を運んでいたようで忙しかったのかもしれないが、コミュニケーションの一環として大切なことである。
事務局	どちらも大変失礼をした。委員のご指摘は職員にも共有し、改善する。
副委員長	水族館というものは魚やペンギンといった生き物を展示する施設と見られがちだが、主役はそういった生き物をどのように展示するのか、館をどのように運営していくかを考える人にあるということを常々意見してきた。 前々館長が協議会にいる時から、次の人材確保といったものをしっかりやってほしいと意見をしてきたが、今回の協議会に新たに参加する職員は、これからどのような水族館にしたいのか、抱負など聞かせてほしい。
事務局	こういった施設を預かるのは初めての経験である。水族館が目的を持つ施設ということで、戸惑いを持っている。まずはこういったところなのかを知ることから始めている。議題２でも触れるが、工事は少

	し経験があるため、施設修繕などを夏休み期間に向け早急に終わらせて、夏場を乗り越えるところに力を入れている。 これからどのようにして寺泊水族博物館を盛り上げていくかに関しては、安全を第一として、来館者の記憶に残るものを守っていく。職員の来館者への暖かな対応も含めて、一丸となって施設を運営したいと考えている。
事務局	水族博物館ということで、観光施設という側面も強いと思うが、教育施設としての面も欠かせないと思う。観覧者に少しでも展示へ興味を持ってもらい、それを入口としてさらに詳しく知りたいと思ってもらう、教育のきっかけになるような施設にしていけたらと考えている。
副委員長	全国の動物園水族館を多く回り、いろいろな人々に出会ってきたが、非常に個性的な担当者が多かった。時間があるときは他の水族館へ訪れたり、人脈を広げ横のつながりを構築しながら情報を仕入れたり、他施設と連携してこれからどうするのかを考えて行動していったほしいと思う。そういった人脈ができると、今はまだ慣れない世界かもしれないが、いろんな情報が入ってきたり、寺泊水族博物館を運営するに当たっての新たな視野が出てくるので、そういった活躍を期待している。
委員長	この協議会自体も、ある意味では新たな知見を得られる勉強会と言える。 委員にお尋ねするが、現在、寺泊水族博物館にはどんな魚を収めていますか。
委員	捕れた魚を何でも水槽に入れると、見栄えはよくなるかもしれないが、水槽の中のバランスが崩れてしまい、魚同士の食害が発生する恐れがあるため、下手な魚は入れられない。
委員	先ほど寺泊水族博物館へ訪れた際にテッポウウオの餌取り射撃ショーを見たが、久しぶりで感動した。ショーの時間が近くなるとたくさんのお観覧者が集まっていた。あまり他の水族館でテッポウウオのショーというのは聞いたことがない。ここにしかないものだと思うので、迫力もあるし推していくべきものだと思う。

事務局	昨今では「生き物にショーをさせるのはどうなのか」といった意見もあり、こういった生き物のショーを行う水族館は減ってきていると思う。しかし、これも一種の生き物の行動・活動であるため、学習・教育という面を重視して今も続けている。5年ほど前からテッポウオの餌取り射撃ショーの前に、テッポウオについての解説を水槽前で行っており、それを目的に寺泊水族博物館へ訪れたという観覧者もいた。水槽に致命的な不具合が出るようなことがなければ、今後も続けていきたいと考えている。
事務局	(2) 水族博物館整備事業の計画（概要）について （資料により説明） 主な意見は次のとおり。
委員長	大河津分水の改修工事と寺泊水族博物館の移転について進展はあったのか。
事務局	現在把握できている情報では、残土の埋め立て工事を計画より早めて行えないのか、国と県が協議している。その後、寺泊地域への説明が終わった後に工事を行うことになると思われる。説明が行われるまでは情報が降りてこない。しかし、工事自体は着々と進行しているため、地元の合意を得た後に、場所がどのように使われるのか市が県や国と協議して検討することになる。その段階まで進めばまたいろいろと情報提供ができると思う。今の段階で説明できることは多くない。限られた予算の中でどんな工夫ができるのか、どんなやり方ができるのかというところは、検討が始まった時にいろいろアイデアを出していくことになると思う。現在の寺泊水族博物館の老朽化への対応と、新しい水族館への移行のタイミングを、どのように整合性をとって上手く移していくかということをこれから考えていく。
寺泊支所長	海浜地は国の土地、港湾施設は県が管理しており、権利が複雑化しているのもあるが、加えて大河津分水から出る残土についての課題がある。恐らく現在最も土を出しているのは信濃川の河川敷にて行っている川幅を広げる作業だと思われる。こちらに関しては当初予定のなかった工事を優先して行っていると思われるが、いずれにしても国が今後どうするのか、それを受けて県の管理地である港湾施設をどうするのかについての話が進むまでは、こちらとしては待つしかないのだ

	はないかと考えている。
委員長	現在海水温が上昇しているが、塩分濃度はどうなっているか。
事務局	冬期間に比べると、この時期は高くなっている。しかし、春先は雪解け水が大河津分水から流れ出て、塩分濃度が不安定になるため、夜間に状況に応じて塩を投入するといった対処を行った。
副委員長	市町村合併以前は寺泊町立の水族館で、現在は長岡市寺泊水族博物館となっている。地元の方に話を聞くと水族館を大切に思ってくれていることのほかに、老朽化を心配する声も聞こえる。将来的に、もし予算がなくなり水族館を維持することが難しいとなった場合、寺泊支所長としてはどうされるのか。
寺泊支所長	何とか残したいという気持ちはある。行政から維持できないと判断されてしまった場合、残念な気持ちが最初に来ると思う。そのうえで何とか残ってほしいという気持ちがある。教育施設であり、地域の方が集まる場所でもあってもらいたい。
副委員長	教育施設ではあるが、観光の一つのツールとして水族館は役に立つと思うがどうか。
寺泊支所長	そう思う。以前は観光コンベンション協会では仕事をしており、旅行会社へセールスに行く際に、寺泊の観光施設としてPRしていた。現在伊勢崎市の小学校が臨海学校に訪れているが、その際にできるだけ水族館へ寄ってほしいという話もした。観光的な場所であってほしいと常々思っている。
副委員長	これまでの協議会にて様々な市職員の方が出席され、結果的に国のことなのでまだ分からないとのことだった。先が見えないのは仕方ないが、目の前の修繕計画を一つ一つきちんと予算の範囲内で進めていきながら、いかに長く保たせるかというのが一番大切なことである。お金の動きは見えないが、人も育てていかないといけない。魚を維持するのは当たり前のことであり、新しい計画が5年先になるのか、10年先になるのか、20年先になるのか分からないが、いつでも寺泊水族博物館の職員が充実しており、新しい水族館を建てるとなった時に職

	員からいろいろなアイデアが出て、予算は掛けられないけど、今のいいところを活かしてこういうものを作っていきたいというところに持っていけないといけないと思う。 今国の大きな計画の中で、なかなか新しい水族館を建てるのは難しいと思うが、それと並行して現寺泊水族博物館を維持し、人も育てていくということを、今日改めて強調したい。
委員長	寺泊水族博物館ができてから、場所を変えてここまで残ってきた。これからも残していかなければならない。
委員	以前の協議会で砂の脅威について話題に上がったが、改めてきかせてほしい。
委員長	大河津分水ができる前、私の子どもの頃は、この会場まで通ってきた道が波打ち際だった。いかに砂が堆積するか分かると思う。
委員	現在も砂の堆積は続いているのか。
委員長	今も砂は堆積し、海岸線が海のほうに伸び続けている。佐渡まで陸続きになってしまうかもしれない。
副委員長	新しい水族館を建てるとしても、場所をしっかりと検討しないと、長い目で見たときに砂の堆積によって水族館の機能に支障が出る可能性がある。
委員	最近は紙媒体の電子化が盛んだが、寺泊水族博物館のパンフレットが大人気で、今日追加で受け取ったが、近隣のホテルや旅行会社が大量に欲しいと言ってくる。掲出しておくも夏休み期間などは特に子どもたちが持っていく。
委員	職場体験の際に生徒たちが3階の展望室から見える景色がすごく良く、ここに映えるスポットがあればもっと良いと言っていた。顔出しパネルの他にハート型の枠などがあればもっと人が来るかもしれない。
事務局	検討する。

	以上
9 会議資料	別添のとおり